

# みやこのあと まち歩きマップ

## ～宮跡西編～

ここは、都があった場所。  
永い年月、数多くの物語が  
積み重なった歴史の上を  
あなたはいま歩いています。

Instagramで  
『#みやこのあと』をつけて、  
歩いた風景を投稿しよう！

- マークの説明
- スタンプラリーポイント
  - レンタサイクル
  - バス停
  - パン屋
  - カフェ
  - お店
  - トイレ
  - コンビニ
  - ホテル
  - 駐車場



おすすめルート(復路)  
秋篠寺  
大極門から徒歩約60分  
大和西大寺駅からバス約6分

八所御霊神社  
秋篠寺旧境内にある神社で、「三間社流造」の本殿は室町時代の造立と言われ、奈良県指定文化財となっています。

奈良競輪場  
1950年に開設された県営の競輪場。バンクは直線の短い333mで、ナイター設備もあります。

歴史の道  
この先の道は少し細くなっています。

西大寺の鎮守社で、古くからその名の通り多くの祭神を祀る神社。大正時代に一神加わり、現在は十六神が祀られています。

かつては曲がりくねった川でしたが、平城宮造営にあわせて直線的に付け替えられ、西大寺や唐招提寺の造営時には運河として利用されたそう。

称徳天皇高野陵(佐紀高塚古墳)  
全長約127mの前方後円墳。西大寺を創建した称徳天皇の御陵であると言われています。

待ち時間が「最短12秒」の押しボタン式信号機。  
12秒信号

十五所神社  
踏切から北へ、細く長い参道が続きます。

1972年に開業した、日本初の2核型大型のショッピングセンター。屋上からは平城宮跡が一望できます。ぜひ、せんとくんと一緒に記念撮影を。

駐車場とショッピングセンターを繋ぐ歩行者専用の連絡橋。

敬尊上人をお祀りする国内最大規模の五輪塔(重文)があります。

全長200m以上もある西大寺北側の壁。パッチワークのようにところどころ違う表情の壁が、歴史の流れを感じさせてくれます。

※ならファミリー・北西出入口外に、西隆寺回廊跡の復元遺構が展示されています。スタンプは1Fインフォメーションカウンターにあります。

西隆寺回廊跡  
西隆寺「東門跡」解説パネル

西大寺奥の院  
野神社

「西隆寺の記憶」案内板(サンワシティ西大寺前)

西隆寺跡(ならファミリー)  
西隆寺「塔跡」遺構 ※立ち入り禁止になっています。

西隆寺「築地堀跡」解説パネル

西大寺  
大極門から徒歩約35分

三和西大寺南町ビル  
西大寺石落神社本殿

大和西大寺駅  
南北自由通路

奈良の文化財・埋蔵文化財の研究や、平城宮跡・藤原宮跡の発掘調査を手がける研究所。シンボルマークは平城宮跡から出土した「卑人(はやと)の盾」。

第一次大極殿  
元日朝賀の儀式や外国使節との面会など、国のもっとも重要な儀式のために使われていたそう。

西大寺八幡神社  
大極門から徒歩約45分

明治時代に西大寺から移築され、現在は集会所として使用されています。正面左右に江戸時代の十一面観音石仏、観音像が鎮座しています。

24時間バリアフリーで、駅の北側・南側の行き来が可能な空中経路。自転車での通行もできます。

平城宮跡資料館  
大極門から徒歩約10分

復原事業情報館  
大極門から徒歩約5分





# みやこのあと まち歩きマップ

～宮跡西編～



スタンプラリー  
シート付き

ここは、都があった場所。  
永い年月、数多くの物語が  
積み重なった歴史の上を  
あなたはいま歩いています。

山折り

## 復原事業情報館

令和4年3月に完成した大極門(南門)の復原工事のようすや技術、第一次大極殿院全体の復原計画をわかりやすく紹介し、復原事業について理解をより深めるための施設です。すでに完成した大極殿と大極門に加え、東西の楼閣、築地回廊、そして内庭広場を、順次整備することが計画されています。完成すれば、朱雀門から大極門を経て内庭広場に入り、大極殿を仰ぎ見るという体験を通して、当時の空間を理解することが可能になります。これらの復原は発掘成果の検討と、現存する当時の建築などを参考に、研究を重ねた結果なし得たもの。遺構の保護、現行の法律や環境条件を精査し、可能な限りの復原を実現させる技術の一つひとつを、建築資材の現物やレプリカ、伝統工具、映像による展示で体験的に学べば、古代建築の楽しみ方がさらに広がります。令和2年にユネスコ無形文化遺産にも登録された本瓦葺や飭金具、縁付金箔製造などの「伝統建築工匠の技」を、存分に味わってください。

住所 奈良市佐紀町239-3  
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約20分  
公開時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)  
※夏期(6月～9月)は10:00～18:30(入館18:00まで)  
休館日 2月・4月・7月・11月の第2月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日  
入場料 無料



復原事業情報館  
ホームページ

## 平城宮跡資料館

奈良文化財研究所(奈文研)の70年に及ぶ、平城宮・京跡発掘調査の最新成果や、考古学・文化財科学の調査方法をわかりやすく展示する施設。こちらは昭和45年、平城宮跡の馬寮(馬を飼育・調教する役所)の跡に建てられました。入口すぐの床一面には、平城京エリアを空撮した現代の奈良の写真がお出迎え。常設展示では、奈文研のシンボルマークにもなっている「隼人の盾」をはじめとする出土品のほか、宮殿内部や役所を再現した実寸大のジオラマなどもあり、当時の貴族や役人の暮らしぶりを垣間見ることができます。また研究室コーナーでは、建築・考古・歴史・地質などの各領域の専門家チームによる最新の研究成果を解説しています。平成19年度から毎年秋に開催している「地下の正倉院展」は、国内で最も多くの木簡を調査・保管する奈文研ならではの展示。実物の木簡(中には国宝・重文指定のもの!)を、数多く見られる貴重な機会として人気があります。

住所 奈良市佐紀町247-1  
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約15分  
公開時間 9:00～16:30(入館16:00まで)  
休館日 月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)  
12月29日～1月3日  
入場料 無料



平城宮跡資料館  
ホームページ

## 西隆寺跡(ならファミリー他)

天平神護3(767)年、僧師の西大寺に対する尼寺として、称徳天皇が造立を命じたのが西隆寺です。現在の近鉄大和西大寺駅北東、約250m四方の範囲に伽藍がありましたが、鎌倉時代に廃絶したと言われ、全容は明らかになっていません。昭和46年以降、開発工事に併せた発掘調査で金堂・塔・回廊・東門・築地塀などが見つかり、今もその痕跡が周辺に遺されています。中でも、ならファミリー北出入口(近鉄百貨店側)を出てすぐのスロープ下には、金堂の回廊(東北隅)の遺構が見られます。さらに建物内1階の北エスカレーター付近の柱に「東門跡」解説パネル、その前の売場床に柱の位置を示す12個の二重丸マークが。他にも、サンワシティ西大寺の入口前に「西隆寺の記憶」パネル、南都銀行西大寺支店の駐車場横に「築地塀跡」解説パネル、前・みずほ銀行西大寺支店裏側の駐車場に「塔跡」の遺構があります\*。これらのスポットを巡り、当時の境内をイメージしてみたいはいかがでしょうか。

\*店舗移転のため、現在「塔跡」の遺構がある駐車場は閉鎖されていますが、柵外から見学することは可能です。

住所 奈良市西大寺東町2-4-1(ならファミリー敷地)  
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約3分  
開館時間 10:00～20:00



なぶんけん  
ブ  
ロ  
グ

## 西大寺

称徳天皇が、父・聖武天皇の東大寺創建に倣い開創した寺院。天平宝字8(764)年、藤原仲麻呂の反乱発覚の当日、称徳天皇は乱の鎮圧を祈願し四天王像の造立を誓願します。仲麻呂を伐した後、自ら像の鑄造に参加して実現させ、これが西大寺造立に繋がるのです。像は幾度となく厄災に見舞われましたが、足元の邪鬼たちは創建当初のもの。1300年踏み続けられながらも、当時の造形を伝えてくれています。奈良時代、南都七大寺のひとつとして隆盛を誇った西大寺でしたが、平安中期以降は衰退してしまいます。それを再興したのは、鎌倉時代の僧侶で、仏教で人の心を立て直したいと「興法利生」を掲げた叡尊上人でした。延応元年(1239)年、完成を西大寺八幡神社にお礼し献茶した際、参詣の人々に湯茶を振る舞ったのが、今でも毎年1・4・10月に開催される「大茶盛式」\*の起源。大きな茶碗のお茶を助け合い廻し呑むことで、「一味和合」の精神を伝える行事です。

\*令和2年以降は中止、あるいは形式を変えて開催しています。

住所 奈良市西大寺芝町1-1-5  
アクセス 近鉄大和西大寺駅南口から徒歩約3分  
公開時間 本堂、愛染堂、四王堂 8:30～16:30・聚宝館 9:00～16:30  
※聚宝館 開館期間:1/15～2/4、4/20～5/10、10/25～11/15  
入場料 令和4年4月1日以降 入山拝観料 800円  
(高校・中学生600円/小学生400円) ※団体料金設定あり



西大寺  
ホームページ

## 西大寺八幡神社

奈良時代に創建され、明治期に神仏分離令が出されるまでは西大寺の鎮守社だった神社。誉田別命・氣長足姫命・玉依姫命を主祭神としてお祀りし、鎮守の森には住吉神社をはじめ、8社の境内社が鎮座しています。境内に拝殿や覆屋が存在せず、室町時代中期に造営された三間社流造の大きな本殿(重文)の全体像をよく見わたすことができる空間構成は、他に類がない珍しいもの。参道には2つの鳥居がありますが、二の鳥居は、小川をまたぐ花崗岩の一体造石橋とともに、境内で最も古い創建当時の建造物とされています。現在は氏子が神主を交代で担い、「愛宕山詣り」などの年中行事、祭祀の運営など、鎮守の文化を絶やすことなく継承に取り組まれています。また左座小屋と右座小屋は本来、社殿から見て左と右にありますが、こちらではいつの頃からか左右が逆転したのだとか。また提灯に描かれている紋は、左座は「鳩」、右座は「鳥居」と左右の座で異なりますが、その理由はわかっていないそうです。

住所 奈良市西大寺芝町2-10  
アクセス 近鉄大和西大寺駅南口から徒歩約10分  
入場料 無料



西大寺八幡神社  
ホームページ

## 秋篠寺

天平宝亀7(776)年、光仁天皇の勅願により建立された祈願寺で、桓武天皇の時代に伽藍が整備されました。平安末期にそのほとんどを火災で焼失しましたが、境内には今も、土壇や礎石など当時の姿を忍ばせる手がかりが遺されています。南門を抜けると広がる、美しい苔に包まれた庭をさらに進むと本堂(国宝)があります。こちらは、焼失を免れた講堂を鎌倉時代に本堂として修補したものの。その堂内には、本尊である薬師如来像(重文)をはじめ、日光菩薩・月光菩薩像(重文)、十二神将像、不動明王像と地藏菩薩像(重文)、帝釈天像(重文)と伎芸天像(重文)が安置され、すべて間近に拝観することができます。中でも伎芸天の美しさは有名ですが、頭部は創建当時の乾漆、体部は寄木で鎌倉時代の補作。少し首を傾げ、左肩を落とし、腰をひねるその姿は、見る角度によって違う表情を見せてくれます。二つの時代の合作により生まれた「動きのある」仏様は、芸能を司る女神として今も愛されています。

住所 奈良市秋篠町757  
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口より奈良交通「押熊」行バスで約6分「秋篠寺」下車すぐ  
公開時間 9:30～16:30  
入場料 500円 ※団体料金設定あり

★新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、開館時間・公開時間が変更になる場合があります。

\*拝観料金が必要となるスタンプポイントが含まれます。